

普及技術

平成 20 年度

エノキタケ「雪ぼうし2号」の栽培管理方法		
[要約] <u>エノキタケ「雪ぼうし2号」</u> について、 <u>栽培技術</u> の開発を進めたところ、一定の成果が得られた。そこで、「雪ぼうし2号」の特徴と栽培管理のポイントを栽培工程順に取りまとめ、 <u>マニュアル化</u> した。		
森林研究所 きのこ・特産課	連絡先	TEL : 0254-72-1173 FAX : 0254-72-0019

[背景・ねらい]

エノキタケ「雪ぼうし2号」は高収量で、これまでの品種にない茎の太さと菌ごたえの良さが特徴であるが、この特徴を発揮するためには、適切な管理が必要である。そこで、「雪ぼうし2号」の栽培特性を把握し、栽培上の留意点をマニュアル化することで高品質なきのこ生産を可能にする。また、これにより、栽培者への「雪ぼうし2号」の一層の普及を図る。

[成果の内容・特徴]

- 1 既存の栽培品種の留意点も共に記載することで、「雪ぼうし2号」との共通点や相違点を比較している。
- 2 培地は針葉樹オガ単体よりも、コーンコブミールを15～20%（容積比）添加することで、収量が増加する（表1）。
- 3 培養工程では、送風機等で室内の空気を攪拌することで、温度や二酸化炭素（CO₂）の上昇を抑えるようにする（表2）。
- 4 発芽はCO₂濃度を低く抑えると共に、培地表面が乾かないように注意する（表3）。
- 5 抑制時の光照射は控えめにする。紙巻きまではきのこが乾燥しないように、湿度高めを維持する。紙巻き後は特にCO₂管理に注意する（表4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 「雪ぼうし2号」はCO₂・湿度・光環境の管理が重要となる。特にCO₂については、全工程を通じて低濃度を維持するよう心がける。
- 2 今回のマニュアルは完成型ではなく、今後の試験や栽培現場での意見等を取り入れ、随時加筆修正していく予定である。より実用的で使い易いマニュアルを目指していく。

[具体的データ]

表1 培地作成

		雪ぼうし2号	栽培品種
基 材	針葉樹オガクズ	適している(優)	
	コーンコブミール	容積比 15 ~ 20 % の 添加で増収効果最大	添加量の増加に従い増収
栄養材	米ぬか	105~110 g /850ml 瓶	98 g /800ml 瓶
水 分		65 ± 1 %	63 %

表2 培養～菌掻き

		雪ぼうし2号	栽培品種
培 養	温 度	14 ± 1 °C	14 ± 1 °C
	湿 度	70 ~ 75 %	70 ± 5 %
	CO ₂ 濃度	2,000ppm 以下	3,000ppm 以下
	培養日数	28 ~ 30 日間	28 ~ 30 日間
菌 掻 き		培地全体に菌糸がまわる直前～直後 早掻きは発生不良や収量低下につながるため禁物	

表3 発芽

		雪ぼうし2号	栽培品種
温 度		13 ~ 14 °C	14 ± 0.5 °C
湿 度		98 %前後 95 %以下にはしない	95 ± 5 %
CO ₂ 濃度		2,000ppm 以下	3,000ppm 以下
光照射		菌糸再生後 100 ~ 300lux 約 15分/日 × 2 ~ 3日	管理作業時の照明程度

表4 抑制～生育

		雪ぼうし2号	栽培品種
抑 制	温 度	4 ~ 5 °C	4 ± 1 °C
	湿 度	85 ~ 90 %	90 ± 5 %
	CO ₂ 濃度	2,000ppm 以下	3,000ppm 以下
	光照射	芽が瓶口 6 ~ 7分 に達したら開始 弱光、短時間で 2 ~ 3日	3 ~ 4cm 1,000lux 15 ~ 20分/日 × 3回
紙 巻 き		きのこが瓶口から 2 ~ 3cm 程度伸びてから実施	
生 育	温 度	5 ~ 6 °C	5 ± 1 °C
	湿 度	80 %前後	80 ± 5 %
	CO ₂ 濃度	5,000ppm 以下	6,000ppm 以下

[その他] 研究課題名：エノキタケ、ナメコの高品質品種の開発とその栽培技術の開発

予算区分：国補

研究期間：平成16～20年度

発表論文等：